

令和6年度 都市経済常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 小川裕暉 (副委員長) 長谷川由美 (委員) 杉本啓子 (委員) 山口順平
(委員) 藤本恵祐 (委員) 加藤大嗣 (委員) 滝口友美

2 視察日時

令和6年10月29日(火曜日) 午前・午後1時30分から午前・午後3時

3 視察先

愛知県半田市

4 視察事項

(1) 第3次半田市産業・観光振興計画の取組について

5 視察概要

	(担当 杉本啓子)
視察先選定理由	<p>第3次半田市産業・観光振興計画におけるガストロノミーツーリズムの取組で、地域資源を最大限に活用し、観光と地域経済の活性化を目指しており、特に発酵・醸造文化を軸に観光施策を展開していることは、茅ヶ崎市の地域資源を活用する手法を検討する上で参考にしたい。</p> <p>*ガストロノミーツーリズムとは、 食や食材に関連した体験や活動を行う観光で、その土地の食文化に触れることを目的としている。フランス語で「美食学・美食術」を意味する「ガストロノミー」と観光を組み合わせた言葉。</p>
内 容	<p>本委員会からの質問事項には、半田市観光課から大変に丁寧な説明資料を作成して頂いたので、「茅ヶ崎市議会視察資料1から資料5を参照。</p> <p>まず「Handa Headliner」という、欧米のニュース番組のように女性キャスターを配置して、外国人観光客にわかりやすく、観光ポイントをまとめたプロモーションビデオを見せて頂き視察がスタートした。①山車 ②蔵 ③新美南吉 ④赤レンガ ⑤ミツカンミュージアム を中心軸にした観光戦略であることが、映像と解説で端的にテンポよく伝わってくるPVであった。</p> <p>令和2、3年はコロナ感染症の影響で観光客数にブレーキがかかったが、令和4年から回復し、円安で外国人観光客の訪問が増加してるのは、各市とも同じ傾向にある。半田市は「はんだ山車祭り」に50万人が訪れ、新美南吉ファンのリピーターも多い。</p>

主要な観光施設にどこから観光客が訪れているのか、国内外の来訪者数や年齢層などの分析を、主にスマートフォンの位置情報を使い県主導で行っている。リアルタイムで観光動向を把握できるため、今後の利用が期待されている。

「景観の良いところに人が来る」という説明が印象的だった。ツーリズムの質を高めるために、歴史的な街並み（蔵や赤レンガ建物等）の保全や広告規制などが行われている。

・「半田市ふるさと景観条例」に基づき「半田市ふるさと景観計画」を定め、市域全域を「景観計画区域」とし、届出対象行為には「景観形成基準」に基づく審査を行う。

・「景観計画区域」のうち、特に良好な景観の形成が必要な地区を「景観形成重点地区」に指定。優れた景観につながる建築行為などに費用の一部を補助。（発酵・醸造文化が根付く「半田運河周辺地区」や「亀崎地区」）

・地域の良好な景観形成となる建造物や、景観形成に重要となっている樹木は、「景観重要建造物」及び「景観重要樹木」に指定され、保存に要する費用の一部を補助。

半田運河周辺や古い建物を利用して、鯉のぼり、風鈴などの景観でまち歩きの魅力を作り出すなどしている。

課題としては、各観光スポットが離れていることで、自転車を観光客が使う感じはなく、日帰りにて車で来て廻っている。

また、食文化を中心としたガストロノミーツーリズムとして、半田の発酵食文化である醸造調味料を使ったメニューの開発、豪商邸宅や酒蔵などの文化財建物での食事など、国の補助金を活用して実証実験を行っている。

ガストロノミーツーリズムを「旅行商品」として販売する場合には、蔵元の工場見学時等の解説ガイドなどは、クオリティやノウハウが求められる。（しかし蔵元は観光でなく作るのが本業。）また、高品質な料理が提供可能な飲食店の開拓が課題となる。

今後の展望としては、半田市の発酵・醸造文化を活用したガストロノミーツーリズムは、歴史的な文化資源である豪商邸宅や醸造蔵と馴染む組合せで、また日本の発酵食文化は、欧米豪の富裕層の知的好奇心に響くため、欧米豪の富裕層をターゲットにした誘客施策を進めている。（クルーズ船「にっぽん丸」の寄港では、「発酵食文化」をテーマにしたオプションツアーが好評だった。）

※行政視察の様子



考 察

本市との比較・本市での展開の可能性

半田市には伝統的な発酵食文化（醸造調味料）や、半田運河、豪商邸宅や酒蔵などの文化財建物など、中心軸となるものがあり、それらの組み合わせや景観計画による良好な景観形成、インバウンドでは欧米豪の富裕層をターゲットにした誘客施策を進めるなど、ポイントを端的にまとめている。

茅ヶ崎市の場合、中心軸となりうる歴史的な文化財建物や製品が少ない。また「景観の良いところに人が来る」といっても、茅ヶ崎は自然の借景による風景で、市域全域を「景観計画区域」として優れた景観やみどりを保全・創生していく積極性は行政にないし予算もつけていない。

もともと、茅ヶ崎は何をポイントにするのか、どの年齢層をターゲットとしていくのかなど絞りにくい市で、また、茅ヶ崎を訪れる方たちの興味の対象や年齢層もバラバラなのだと思う。それであれば、いっそのこと、市域全域を「景観計画区域」として優れた景観やみどりを保全・創生していくことで、バラバラの興味を楽しめる土壌を作り、イコールそれが茅ヶ崎市の地域資源となり、イコール「景観の良いところに人が来る」をベースにすることで、茅ヶ崎市の観光施策の展開に可能性が生まれてくると考える。

備 考

参考資料（半田市提供資料）

- （１）茅ヶ崎市議会視察資料（資料１から資料１４まで）
- （２）愛知県半田市 観光案内「いいかも 半田」
- （３）半田市観光ガイドブック一式